

平成 22 年 5 月 18 日現在

研究種目：基盤研究（B）

研究期間：2007～2010

課題番号：19320007

研究課題名（和文） 経済倫理の新たなグローバル・スタンダードの構築

研究課題名（英文） Establishing a new global standard for economic ethics

研究代表者

杉田 正樹（SUGITA MASAKI）

関東学院大学・人間環境学部・教授

研究者番号：70130937

研究代表者の専門分野：哲学、経済倫理、環境哲学

科研費の分科・細目：哲学・哲学 倫理学

キーワード：CSR、労働倫理、経済倫理、信頼、儒教、職人道德

1. 研究計画の概要

(1) 経済倫理の新たなスタンダードを確立することが目的である。それは、グローバル化した経済活動が倫理を失い、世界に恐慌に似た被害をもたらしているからであるが、それにとどまらず、社会の深部にモラルの崩壊といったよい状況を生み出しているからでもある。

(2) このために、われわれは、次のような計画を立てた。

経済倫理の基礎研究を行うこと。

東アジアやヨーロッパの研究者と相互交流を深め、アメリカ発の問題を正す方途を見出すこと。

経済倫理に理解があり、それを実行している、日本の 10 数名の企業家にインタビューを行い、その思想や文化的背景を明らかにすること。

と関連して、伝統思想の再評価を行うこと。具体的には、儒教研究と日本の職人の仕事倫理に新たな光を与えることである。

2. 研究の進捗状況

(1) 上記 に関しては、着実に進みつつある。

(2) に関しては、アルザス（フランス）とデュッセルドルフ（ドイツ）において、シンポジウムやワークショップを開催した。この成果は、平成 22 年 3 月に「中間報告書」を作成した。これらの成果の上に、とも関連するが、西洋思想のみならず、東アジアの伝統思想も研究の対象として研究を進めているところである。

(3) に関しては、すでに数名の企業家にインタビューを試みた。企業倫理や CSR を中心とし、かつその文化的背景を問題とする、従来にはないタイプの報告が出来るのではないかと期待している。

(4) に関連して、京都の西陣で地域興しを推進している職人の方にインタビューを行った。また、職人の独特な倫理意識や職人氣質、また、それを支える仕組みと変化なども視野に入れて研究を行っている。

3. 現在までの達成度

おおむね順調に進展している。

（理由）

「進捗状況」でも述べたが、平成 22 年 3 月に「中間報告書」を作成した。これによって、の「ヨーロッパの研究者との交流」の成果をまとめることが出来た。無論まだそれは「中間」報告にとどまるのであって、真の意味での議論はこれから深めねばならない。

、 に関しても、今年度末を目指して、鋭意、進行中である。7 月には研究会を開催予定で、ここで、最終報告に向けて、成果を持ち寄り、編集会議や研究発表を行う予定である。

4. 今後の研究の推進方策

研究会を開催し、また、編集委員会を重ね、を中心として、やを考慮しつつ、「最終報告」をまとめることが目指される。

さらに、思想関係で協力者の援助を得て、研究をより豊富化することも考えている。

5. 代表的な研究成果

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計33件)

- ・加藤尚武、「公共性と正義」、『生活と環境』、査読なし、2008年11月号、79-82ページ、(他、同誌2008年10月号より2009年2月号までの一連の連載論文)
- ・杉田正樹、「信頼と不確実性：『ライフデザイン論』とは何か」、『関東学院大学人間環境学会紀要』、2008年、第10号、査読なし、1-15ページ
- ・香川知晶、「応用倫理から見た倫理」、『生存科学A』、査読なし、2007年、18(A)号、7-12ページ

[学会発表](計24件)

[図書](計18件)

- ・杉田正樹、「グローバリゼーションと哲学の可能性」、野家啓一、卜崇道、尾関周二編、『現代に挑む哲学 - 日中共同研究：東アジアの観点から』、学文社、2007年、93-106ページ
- ・小山巖也、『日本の企業倫理：企業倫理の研究と実践：Business ethics and CSR』、白桃書房、2007年、193ページ

[その他] ホームページ URL

<http://home.kanto-gakuin.ac.jp/~be02/index.htm>